作業療法室の紹介

一般財団法人黎明郷

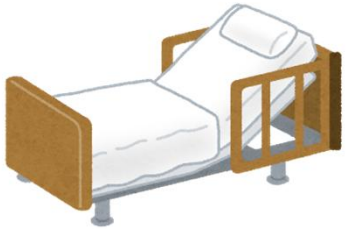
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

目次

- 当院の作業療法について
- 作業療法室の教育体制
- スタッフの声
- 室長から

当院の作業療法について①

➢ 脳卒中急性期の作業療法



　医師の指示のもと、入院初日からADLの再獲得に向けて介入しています。脳卒中急性期のリスク管理の知識が必要ですので、回復期病棟で経験を積んだ作業療法士を配置し、患者様やご家族の不安が少しでも軽減できるように努めています。

　また、回復期病棟でリハビリテーションを継続される患者様の場合、環境変化が患者様の自立を妨げないよう回復期病棟のスタッフと連携しています。

➢ 脳卒中回復期の作業療法

　ICFの『参加・活動』の拡大を目指して、自分でできることが増やせるよう作業療法を計画・実行しています。患者様に合った病室の環境設定はもちろん、自宅など退院先の環境を視野に入れた動作練習を行います。必要に応じて他職種と協力しながら家族へ介助のアドバイスを行い、安心して退院を迎えられるように努めています。

当院の作業療法について②

➢ 訪問・外来リハビリテーション

退院後にリハビリテーションが必要な方に対し、医師の指示のもと訪問や外来リハビリテーションを実施しています。患者様が退院前する前に入院中の担当リハスタッフと連携し、安心して在宅生活が送れるよう支援しています。

➢ 心臓リハビリテーション

『心臓リハビリテーション指導士』として、作業療法士1名が在籍しています。当院の“心臓リハビリテーションチーム”の一員として多職種と一緒に活動しています。

➢ 麻痺の改善に向けた治療

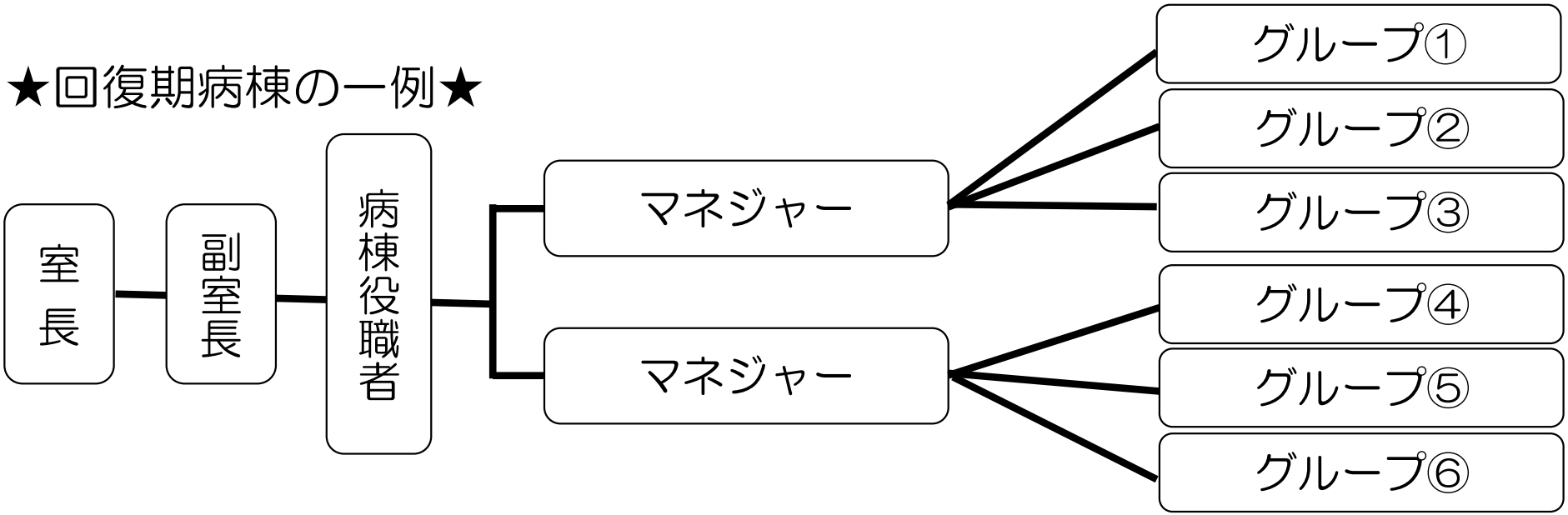
上肢の麻痺に対しては、促通反復療法、電気刺激療法、CI療法、上肢用ロボット型運動訓練装置（ReoGo-J）などを取り入れています。

また、スタッフの技術の維持・向上のため、計画的に研修会への参加や院内での実技練習に取り組んでいます。

作業療法室の教育体制①

作業療法室では室長・副室長が全体の指揮を執り、
各病棟の役職者と連携した教育体制をとっています。

★回復期病棟の一例★

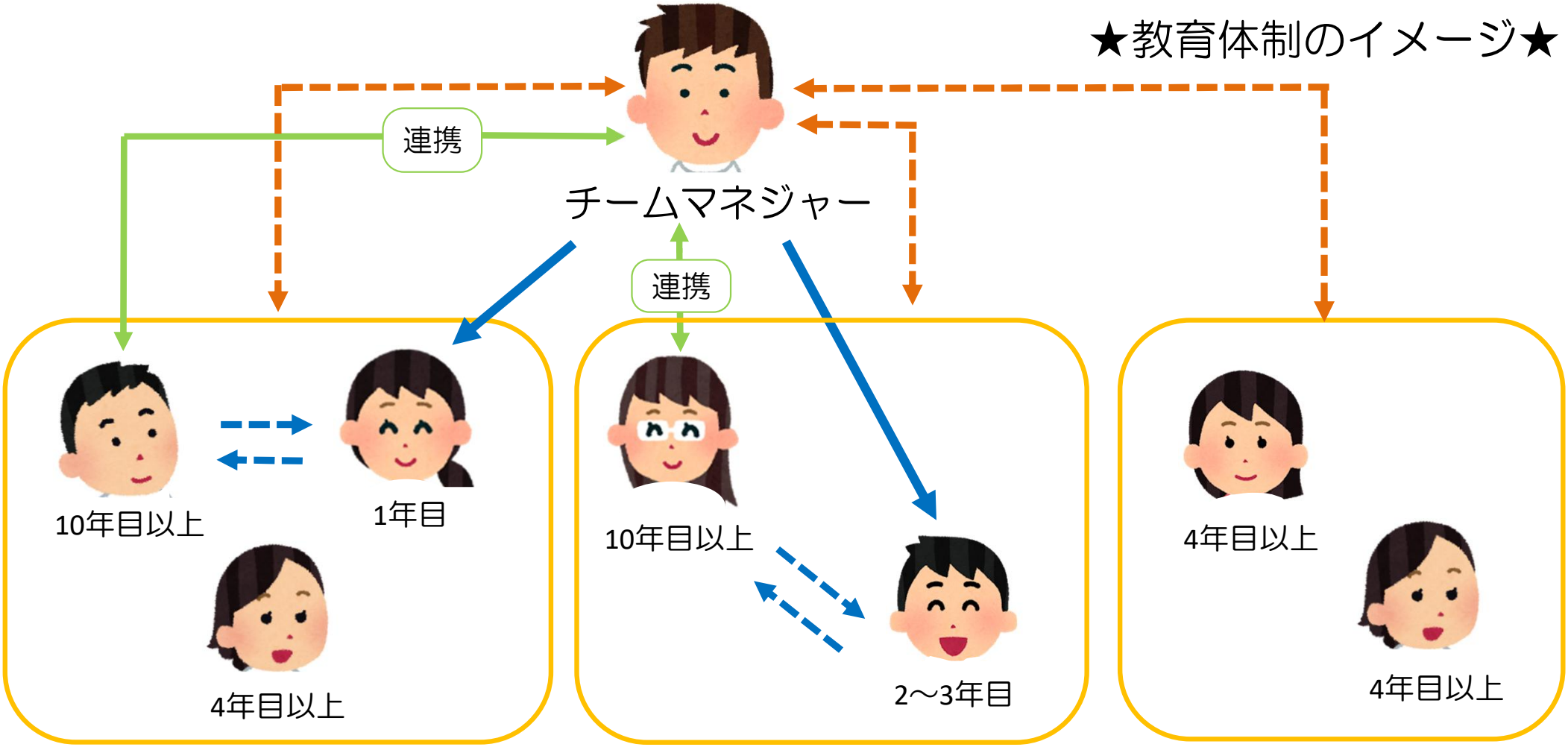


回復期病棟では病棟役職者とマネジャーの連携された指揮のもと、2つのチームに分かれた教育体制となっています。1チーム3グループずつに分かれており、グループの構成は、2～3名の配置が基本です。
人員配置は理学療法室と連携して決定しています。

作業療法室の教育体制②

チームのマネジャーが新人（1年目）の教育を担当しますが、
グループ内メンバーのスタッフとも連携して教育をサポートします。
またチームマネジャーが各グループのマネジメントも行います。

★教育体制のイメージ★



作業療法室の教育体制③

自己評価表を使用して作業療法士として必要な技術を確認しています。
毎年個人目標を掲げ、自己研鑽のきっかけづくりと環境の支援をしています。

★評価項目の一例★

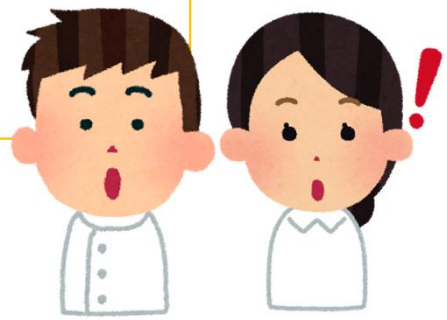
＜ステップ１＞　社会人・職員・OTとして望ましい態度や行動をとることができる
＜ステップ２＞　基本的な検査手技ができる（対象者の全体像を把握できる）
＜ステップ３＞　対象者の全体像をまとめ、作業療法計画を立案・実施できる
＜ステップ４＞　カンファレンスで適切な報告ができる（予後予測を含む）
＜ステップ５＞　退院に向けた準備ができる（家族指導・書類など）
　　組織の管理・運営について理解することができる
＜ステップ６＞　指導ができる（後輩・学生）
＜ステップ７＞　自分の考えをまとめて発表できる（学会・部署内の研修会など）

上記のステップごとに下位の評価項目があり、自己評価・他者評価を行っています。

作業療法室の教育体制④

作業療法室では、以下の勉強会等を企画し、
スタッフの知識や技術の標準化に努めています。

1. 症例検討会
2. ADL動作分析の勉強会
3. 評価および訓練技術の獲得に向けた練習
4. 各種学会での演題発表者による予演会
5. 各種研修会・学会参加者からの伝達講習会
6. その他



作業療法室の資格取得への取り組み

現在、当院の作業療法士が取得または取得予定の資格は以下の通りです。
患者様へ質の高いリハビリテーションを提供するため、資格取得に向けたスタッフの意欲を支援しています。

心臓リハビリテーション指導士、ＮＳＴ専門療法士、
回復期認定セラピストマネジャー、ケアマネジャー、
日本作業療法士協会 認定作業療法士

職員の声①

➢ 作業療法士 3年目

子供の急な体調不良時にも休暇が取りやすく、安心して勤務できる環境です。患者様のリハビリで悩んだ際に、経験豊富な先輩方から多くの助言・指導を頂ける点も大きな魅力だと思います。また、当院では勉強会や研修会なども多く行っており、自己研鑽も行いやすい環境です。私は患者様から感謝の言葉や、日々の小さな変化・前進を共に喜べることにやりがいを感じています。

今後はさらに専門性を高め、より質の高い作業療法を提供できるように頑張りたいです。

職員の声②

- 作業療法士 7年目

　患者様の価値観や生きがいをもとに様々な生活行為について分析し、できなかった事ができる喜びを共有しながら治療プログラムを考え、患者様をより豊かな生活に導くことができるやりがいのある仕事です。また、グループのリーダーとして経験を重ねる中で、後輩の考えを集約しチームをまとめる難しさは日々感じますが、常に上司のサポートがあり助かっています。

　職場は明るく雰囲気がよく活気に溢れています。
是非一緒に働き、患者様の社会復帰の手助けをしていきましょう！

職員の声③

- 作業療法士 16年目

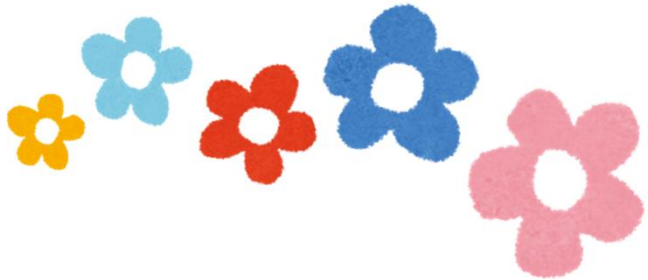
子育てしながら働いていますが、職場の理解と相談しやすい温かい雰囲気に支えられ、安心して働けています。オンライン研修も導入されており、ライフスタイルに合わせて自己研鑽に取り組めています。

作業療法士として患者様にとって意味のある作業や社会参加について考えることは大きなやりがいです。
より良い支援の提供を目指して一緒に
働いてみませんか？

“より質の高い作業療法”の提供を目指して

当院では患者様やご家族とニードを共有し多職種で連携を図りながら、個別的なリハビリを提供しています。また、訪問リハビリや外来リハビリなどの退院後の支援も行っています。

現在、作業療法士は80名程在籍しています。そのため、教育体制やスタッフ間連携にも力を入れています。また、研究活動も行っており、より質の高いリハビリの提供を目指し技術向上に励んでいます。患者様のその人らしい生活の再獲得へ向けて、一人一人に寄り添い、より質の高いリハビリ・支援の提供を目指していきたいと思います。



作業療法室長　住吉 佳奈子